

会報

No. 114

令和8(2026)年3月15日

<https://www.library.pref.kyoto.jp/k-lib/council>

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町

京都府立図書館内

TEL (075) 762-4655

<目次>

1面

- ・木津川市立中央図書館長寿命化改修工事を終えて
(木津川市立中央図書館)

2面

- ・絵本コーナーが
新しくなりました!
(京都市向島図書館)

3面～4面

- ・北部研修報告(宮津市立図書館)
- ・第三十四回京都図書館大会を開催しました(京図連協事務局)

令和七年四月一日、長寿命化改修工事(令和五年度から二カ年計画)を終えて、木津川市立中央図書館がリニューアルオープンしました。

平成四年二月に木津町立中央図書館として新築オープンし、平成十九年三月の木津町、加茂町、山城町の三町合併を経て約三十年に渡り、市民に支えられ利用されてきました。

二階展示ホールの天井部分からの雨漏りから始まり、トイレや作業室の雨漏りなど躯体の老朽化、空調設備や高圧受電設備の更新、和式トイレからの洋式化、蛍光灯の生産終了に伴うLED化など更新時期が迫っている状況から、本市の長寿命化計画に基づき令和三年度に設計業務を委託し、令和五年度から二年に分けて対策工事を行いました。

市内には中央図書館を含め三図書館があることと、奈良市と本市との連携協力に関する包括協定に基づく奈良市立北部図書館の図書貸出サービスの利



用が可能であることから新しく図書館を建設するのではなく、長期に渡り既存施設の活用を図ることを選択しました。

その他、令和四年度から二カ年計画により館内スペースの有効活用と図書の開架冊数増加を図るため書架の増設を行いました。

長寿命化による工事の内容は、一年目は、主に雨漏りの原因である屋根及び外壁の修繕を優先し、躯体部分を中心に館内壁の全面塗装、児童コーナーのリニューアル、和式トイレの洋式化、屋外の床改修などを行いました。

休館期間は、九月から十二月までは土日のみの開館、一月から三月三十一日までは完全休館しました。その間は市内の加茂図書館、山城図書館や奈良市立北部図書館を利用いただきました。

二年目は、設備の更新を中心に高圧受電設備(キュービクル)の更新、開館当初から稼働していた空調設備の更新、照明器具のLED化を行いました。

工事期間中の開館は難しく、十月から三月三十一日までは完全休館としましたが、一年目の工事期間中に利用者から「予約本だけでも貸出してほしい」とのご意見を頂戴したこともあ



り、他の場所での開館を検討しました。図書館協議会でも検討した結果、市役所別館の会議室を借用することができたため、休館期間は、予約本の受け渡しや新刊本の貸出など簡易な業務を行いました。今では図書館から五百m離れた市役所別館まで図書館職員の見送、予約本や新刊本の配送に何度も往復したことは良い思い出となります。

リニューアル後の中央図書館では、利用もコロナ前に戻りつつあります。照明器具をLED化したことで、明るい雰囲気でも利用しやすくなりました。

また、児童コーナーもカーペットを新調し、書架や自習席も増設したこと

で子育て世代や若者の利用も増えましたが、さらに生涯学習の拠点となる図書館の運営を工夫し、仲間づくりや地域づくりができる場としての提供を行っていきたいです。

今後は約二十年后に再度の改修を行うことよって、七十年間使用を目標とすることで利用者にとって安心・安全な施設として長期的な利用を目指す計画としています。

絵本コーナーが

新しくなりました!

京都市向島図書館 畔柳 葉月

向島図書館は、伏見区南部の向島ニュータウン内に一九八六年（昭和六十一年）に開館しました。図書館の南側には小川が流れる緑豊かな中央公園がある四季の移り変わりを感ぜられる環境で、地域に密着した図書館として、地域の皆様をはじめ多くの皆様にご利用頂いております。一方で、令和七年度に開館四十周年を迎え館内全体の老朽化が課題となっておりまして、そのような折に、令和六年十一月に、京都市に本社を構える巖本商事株式会社から、向島図書館の読書環境充

▼写真②



実を目的として、絵本コーナーやエントランス空間のリニューアル整備一式（二千万円相当）の寄付の申し出をいただきました。

京都市では、すべての人に「居場所」と「出番」がある「突き抜けた世界都市 京都」を目指し、図書館においては、自宅や学校、職場以外の第三の居場所（サードプレイス）として、さらには、新たなつながりや活躍の機会の創出により、価値や気づきに出会える場（フォースプレイス）としての居場所づくりを推進しているところです。

向島図書館の絵本コーナーの床は、カーペットが敷かれていたもののクッション性が悪く、窓はブラインドが常時閉まっており薄暗い状態であったた

め、(写真②) リニューアルに当たっては、絵本コーナーの書架はすべて更新、床や壁も全面改修し、居心地がよく、子どもたちの居場所となる空間を創出しました。

リニューアル後の絵本コーナーは、「森」をイメージしています。壁紙は明るい緑色で、床はクッション性のある葉っぱ模様のフロアシートになり、キノコや切り株をモチーフにしたテーブルと椅子を配置しました。

さらにブラインドをロールスクリーンに替えたことで光が差し込み、図書館全体が明るく楽しい印象になりました。

また新しい絵本書架は、一部分に展示式絵本書架を設けています。収納できる絵本は大幅に減りましたが、絵本書架の上部を展示スペースとして活用し、ゆとりのある空間にしました。さらに絵本コーナーの正面にはDVDプレイヤーを備えた大画面モニターを設置しました。

令和七年四月二十五日に、松井孝治京都市長、稲田新吾教育長、巖本賢巖本商事株式会社代表取締役、橋村芳和京都市会議員をお迎えして完成発表会を開催しました。地元の幼稚園、保育園児たちも多数参加し、幕がかかった

絵本コーナーのテープカットを行いました。除幕後に園児たちは新しい絵本コーナーで絵本を読んだり、向島図書館職員による読み聞かせを聞いたりして過ごすなど、子どもたちが好きな絵本を手に取り、読書を楽しむ様子に癒された楽しい時間となりました。

リニューアル後の利用者の反応は、「絵本コーナーが明るくなった。」「キノコの椅子がかわいい。」「と大変好評です。快適な空間で一日をリラクセスして過ごせる居場所になったと感じます。(写真③)

リニューアル前と比べるとおたのみ会等の行事の参加者も増えていまして、これまでも行事に参加して下さっていた近隣の施設や児童館の先生

▼写真③



たちには「過ごしやすくなってよかった。」とお声掛けいただき、継続的に行事に参加してくださっています。

建物のリニューアルに加えて、児童書、絵本合わせて四百十二冊を購入しました。

児童書については、高額なため買い替えが難しかった辞書、辞典類や古くなったシリーズものの差し替え、新しく全集等を購入しました。絵本は、昔話をシリーズで購入し、古く傷みのひどいものを差し替え、大型絵本を十冊購入しました。新たな児童書を購入したことで、古い本を除籍することができ、本の回転率も上がりました。

今回のリニューアルによって、館内は明るく楽しい空間となり、絵本コーナーの利用人数は増えています。また完成発表会をきっかけに、コロナ禍で中断していた地元のこども園の団体貸出が再開するなど、嬉しい効果もありました。とくに土日は絵本コーナーで多くの子どもや親子連れが読書を楽しみ、長時間ゆっくりと過ごされています。今回このような縁があり、絵本コーナーをリニューアルできたことで、市民の居場所となる素敵な空間が出来上がったと感じています。今後は絵本、児童書をさらに充実させ、行事

を積極的にを行い、地域の皆様の居場所となる図書館を目指し、向島図書館から地域全体を活気づけていきたいと考えています。



図書館利用率の向上は多くの図書館の目標となっています。しかし中々実現するのは難しく、統計データはあるもののそれらをどのように分析し、良い方向に改善していくか考えるのは容易ではありません。

そこで今回は『図書館を学問する』の著者でもある同志社大学教授の佐藤翔氏をお招きし、「図書館利用率を向上する可能性をデータから探るといふ」一題でお話をさせていただきました。

(写真④)
二〇一四年から二〇二四年にかけての全国の図書館の来館者数や貸出冊数の動向を見ると、新館オープンなど一部の図書館を除き減少傾向にあります。また、来館者と貸出者の結果を重ね合わせると、ライトユーザは全体的に離



▲写真④

使っていない」「時間が無い」「本は買う」「ふつうに使わない」「興味がない」の層に分けられます。

説明の中で印象に残ったのは、新型コロナウイルスの影響で、それまで読書家やパワーユーザとして図書館を利用していた層（特に高齢者）が、自粛期間や図書館の臨時休館の間に、デイサービス利用など図書館利用以外の活動を選び、そちらが習慣として定着していったというお話です。コロナ禍が落ち着いても利用者が戻らない一因として、思い至らなかった視点でした。また、防犯の観点から児童だけで図書館に来館するということも少なくとも、保護者の予定がつかず親子での来館も難しい場合があるという意見もあり、その通りだと思いました。

そのように社会が変わってきている中で、新たな利用者として開拓の余地があるのが「ふつうに使わない」層です。この層は図書館に興味がないほど無関心ではありませんが積極的な関心はありません。それらを読書家やパワーユーザにすることは難しいですが、調べたいことがある際などスポット的に図書館を利用する層にすることはできます。そのように非利用者層を利用者層として取り込み、定着までは

利用者をクラスター分析すると、主に「パワーユーザ」「読書家」「意識の高い若者」「子どもの付き添い」「ふつうの利用者」の層に分けられ、反対に非利用者クラスターは主に「今は

いかなくとも循環をさせるという考え方には関心を持ちました。

インターネットを通じて誰でも情報にアクセスしやすくなり、電子書籍もポピュラーになってきた時代だからこそ、図書館利用に対する意識も変わってきていると感じます。読書家やパワーカーになるまでにはいかなくとも、何か得たい情報があれば図書館に行ってみよう、図書館は居心地の良い場所というように、図書館が頼れる場所として、住民の頭の片隅にいられてもらえるような発信や取り組みが必要になってきていると感じました。

また利用率向上のためのアプローチ方法としてSNS、特にInstagramでの情報発信についてもお話いただきました。おでかけ施設を探す際にSNSを活用する人は約七割いて、そのうち約六割がInstagramを活用したことがあるそうです。Webページよりも見られているとのことで、自身が感じているよりも多くの方が利用していることを知って、自館でも取り入れてみたいなどと思いました。

今回お伺いしたデータから導き出される分析はとても興味深かったです。図書館ごとに実態は違いますが、利用率向上の糸口になるヒントを教えてください。

ただけたのかなと思います。

現在の利用者に真摯に向き合うとともに、非利用者と図書館を繋ぐためにはどのようなことができるのか。今回の研修から学んだことを今後の図書館運営に生かしていきたいです。



令和七年十一月一日(月)に、第三十四回京都市図書館大会を京都府立京都学・歴史館で開催しました。(写真⑤)

⑤ 今大会は、「図書館×地域連携の可能性」をテーマとしました。基調講演では、株式会社スターパイロツツ代表の三浦丈典氏をお招きし、「近未来のまちとそこにある図書館」と題してお話をいただきました。三浦氏は、ご自身がこれまで設計に携わってこられた各地の図書館を紹介されるとともに、図書館は地域住民のまちへの愛着を育む施設であり、今後増加すると見込まれる建て替えやリノベーションの際には、地域住民をどんどん頼ることで、包括的で寛容な空間をつくることが必



▲写真⑤

要だと述べられました。

事例発表では、公益財団法人日本交通公社観光研究部の福永香織氏、京都府立宮津天橋高等学校宮津学舎学校図書館司書の大槻美代氏、京都府立医科大学附属図書館の大瀧徹也氏のお三方に御発表をいただきました。福永氏は、観光を通じた地域活性化に図書館が貢献できる方策について、大槻氏は、宮津市立図書館との間で行っている、高校生による展示等の取り組みについて、大瀧氏は、地域住民に開かれた大学図書館を目指して実施されている広小路キャンパス活性化プロジェクトについて、それぞれ御報告いただきました。

ました。

また、参加者の中で抽選に当選された方を対象とし、京都府立京都学・歴史館の館内見学を実施しました。一般には公開していない書庫の見学や、貴重な資料を御紹介いただき、参加された方からは好評をいただきました。さらに、大会に御協賛いただいた企業によるブースには、多くの方が休憩時間等に足を運ばれました。

大会には、約百名の方に御参加をいただきました。参加者の方からのアンケートでは、「図書館関係者は全て望む未来像だと思えます。自治体の都市経営、まちづくり担当幹部に是非聴いていただきたい講演だと思いました。」「図書館が地域住民や学生の居場所となることを念頭に図書館づくりをしておられるように感じられ、胸が熱くなりました。」といった感想が寄せられました。

なお、大会の様子は、オンラインで後日配信を実施しておりますので、こちらもご覧ください。

Ⅱ 会報はホームページに掲載Ⅱ

京都府図書館等連絡協議会のホームページに過去の会報も掲載しています。御利用ください。